

支援事例

商工会名	宇城市 商工会	氏名	古川 文裕	情報開示の可否	可
支援テーマ	創業	題名	稀観作物農家によるふるさと活性化事業 (新事業立上げ)		
	地域資源活用・新連携				
	農商工連携・6次産業				
	販路拡大・販路支援				

<支援企業の概要>

事業所名	(株)TobaseLabo	従業員	5 人	創業/ 会社設立	創業日	2019年6月1日
業種	果物生産加工販売・飲食業	うち家族従業員	0 人		業歴	5年9ヶ月

○企業概要

宇城市三角町戸馳にて柑橘類の生産販売業を営む。アボガド・パッションフルーツ等の国内で生産量の少ない果実（含む加工品）の生産・販売に取り組む。令和6年、地元「戸馳」の活性化のため、閉鎖されていた「花のがっこう」をリニューアルし、飲食・物販・体験学習を行う「HANA no GAKKO」事業を計画。

既存事業のアボガド・パッションフルーツ等の生産は当地の気候・風土にあっており、販売先・取引先からも高く評価されている。

新事業である「HANA no GAKKO」では、地域の食材を活用した飲食事業、地域の特産品販売、ワークショップ等の体験学習を行うもの。

○支援のきっかけ（相談内容）・支援前の課題

（きっかけ）新事業である飲食店開業のため生活衛生同業組合に融資相談を行ったところ、断られたとのことから初回相談を受けた。

（概要）初回対応時は、具体的な事業計画、資金調達計画、収支計画が全くない状況であった。しかしながら、開業日は決定しており、店舗の改装工事はすでに発注・着手済みであったことから、対応を間違えると事業所の対外的信用を大きく損ね、多額の損失も発生する状況にあった。

（課題）事業計画が固まる前に改装工事等が発注されていたため、日程上の制限があった。また、キャンセル不能な契約が大半であったため、必須の資金調達額がすでに決まっていた。個人での農家としての申告期間も短く、業容・業績ともに希望する資金を融資により調達することは非常に困難な状況であった。

○支援内容および支援後の状況・効果

（支援内容）事業計画の策定支援に合わせて、設備投資計画の洗い直し、資金繰りの確認、金融機関への融資取扱いの打診を行った。想定通り金融機関は融資に対して否定的な見解であり、商工会が間に入って協調融資をまとめることが必須となった。また、自己資金の少なさも大きな問題として残ったが、代表者の広い人脈と過去の営業活動の実績から、上場企業からの資金協力（開発費の前渡）が相当額得られる可能性があったため、これを自己資金とみなして金融機関からの融資を受ける段取りをとった。

（状況・効果）上場企業からの資金協力を得られたことにより、政府系金融機関・地域金融機関・信用保証協会保証による協調融資が実施され、資金調達、開業にこぎつけることに成功した。

○今後について（目標や課題など）

（課題）支援を行い開業に至ったものの、事業期間が短く実績を判断する事は難しい。

地域の特性として、観光需要の少なさと知名度の低さが懸念材料となっている。安定的な集客を維持するため常に新たな取り組みを行う必要がある。